

平成23年度採択プログラム 事後評価調査

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	東京大学	整理番号	C02
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) ごのかみ まこと 氏名・職名 五神 真 (東京大学総長)(H27.4.1総長交替)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) みやぞの こうへい 氏名・職名 宮園 浩平(大学院医学系研究科・研究科長)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) いわつぼ たけし 氏名・職名 岩坪 威(大学院医学系研究科・脳神経医学専攻・教授)		
4. 類型	C<複合領域型(生命健康)>		
5.	プログラム名称	ライフイノベーションを先導するリーダー養成プログラム	
	英語名称	Graduate Program for Leaders in Life Innovation	
	副題		
6. 授与する博士学位 分野・名称	分野: 医学、工学、薬学・薬科学、理学		
7. 主要分科	((① 脳神経科学 )) ((② 人間工医学 )) ((③ 薬学 )) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	基礎生物学、生物科学、基礎医学、内科系臨床医学、外科系臨床医学		
8. 主要細目	((① )) ((② )) ((③ )) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
	神経科学一般、医用生体工学・生体材料学、医用システム、遺伝・ゲノム動態、動物生理・行動、構造生物化学、機能生物化学、生物物理学、分子生物学、細胞生物学、発生生物学、化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学、創薬化学、解剖学一般、薬理学一般、医化学一般、内科学一般、外科学一般		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下 線を引いてください。)	医学系研究科分子細胞生物学・機能生物学・病因病理学・生体物理医学・脳神経医学・社会医学・内科学・外科学・生殖発達加齢医学専攻、工学系研究科バイオエンジニアリング・マテリアル工学・化学生命工学・化学システム工学・応用化学・電気系工学・機械工学・精密工学・原子力国際・物理工学専攻、薬学系研究科全専攻、理学系研究科生物科学専攻、分子細胞生物学研究所、医科学研究所		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名	該当せず		
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名	該当せず		
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	該当せず		

氏名		フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成29年度における役割)
14. プログラム担当者の構成 計 34 名						
外国人の人数		2	人	[ 5.9 %]	女性の人数 1 人 [ 2.9 %]	
プログラム実施大学に属する者の割合 [ 100.0 %]						
プログラム実施大学に属する者				34	人	プログラム実施大学以外に属する者 0 人
そのうち、他大学等を経験したことのある者				29	人	そのうち、大学等以外に属する者 0 人
15. プログラム担当者						
(プログラム責任者)						
宮園 浩平		ミヤゾノ コウヘイ		大学院医学系研究科・研究科長	医学・分子病理学・博士(医学)	プログラム責任者。プログラムの実施に関して責任を持つ
(プログラムコーディネーター)						
岩坪 威		イワツボ タケシ		大学院医学系研究科・脳神経医学専攻・教授	神経病理学・アルツハイマー病・博士(医学)	プログラムコーディネーター。プログラムの企画・運営を実質的に統括する。教育タスクの分担。
飯野 雄一		イノ ユウイチ		大学院理学系研究科・生物科学専攻・教授	分子行動遺伝学・博士(理学)	教育タスクの分担、教育リソース委員会
岡 良隆		オカ ヨシタカ		大学院理学系研究科・生物科学専攻・教授	神経生物学・神経内分泌学・博士(理学)	教育タスクの分担、学生支援委員会、理学系幹事
榎本 和生「H29.4.1追加」		エモト カズオ		大学院理学系研究科・生物科学専攻・教授	神経科学・博士(理学)	教育タスクの分担、カリキュラム委員会
深田 吉孝		フカダ ヨシタカ		大学院理学系研究科・生物科学専攻・教授	神経生化学・分子生物学・博士(理学)	教育タスクの分担、携網構築委員会
阿部 郁朗		アベ イクロウ		大学院薬学系研究科・薬科学専攻・教授 (H25.4.1専攻再編成)	天然物化学・博士(薬学)	教育タスクの分担、学生支援委員会、薬学系幹事
内山 真伸		ウチヤマ マサノブ		大学院薬学系研究科・薬科学専攻・教授 (H25.4.1専攻再編成)	医薬品合成化学・博士(薬学)	教育タスクの分担、カリキュラム委員会
嶋田 一夫		シマダ イチオ		大学院薬学系研究科・薬科学専攻・教授 (H25.4.1専攻再編成)	構造生物学・博士(理学)	教育タスクの分担、連携網構築委員会委員長
村田 茂穂		ムラタ シゲオ		大学院薬学系研究科・薬科学専攻・教授 (H25.4.1専攻再編成)	生化学・分子生物学・博士(医学)	教育タスクの分担、教育リソース委員会
佐久間 一郎		サクマ イチロウ		大学院工学系研究科・附属医療福祉工学開発評価研究センター・教授	生体医工学・精密工学・博士(工学)	教育タスクの分担、連携網構築委員会
高木 周		タカギ シュウ		大学院工学系研究科・機械工学専攻・教授	流体工学・生体力学・博士(工学)	教育タスクの分担、学生支援委員会
田畑 仁		タバタ ヒトシ		大学院工学系研究科・バイオエンジニアリング専攻・教授	バイオエレクトロニクス・博士(理学)	教育タスクの分担、教育リソース委員会

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成29年度における役割)
鄭 雄一	テイ ユウイチ		大学院工学系研究科・バイオエンジニアリング専攻・教授 大学院医学系研究科附属疾患生命工学センター・臨床医工学部門・教授	バイオマテリアル・骨軟骨再生医学・博士(医学)	教育タスクの分担、カリキュラム委員会、工学系幹事、副プログラムコーディネーター
白髭 克彦	シラヒゲ カツヒコ		分子細胞生物学研究所・教授	ゲノム構造学・博士(医学)	教育タスクの分担、カリキュラム委員会
渡邊 嘉典	ワタナベ ヨシノリ		分子細胞生物学研究所・教授	染色体動態学・博士(理学)	教育タスクの分担、学生支援委員会
川口 寧	カワグチ ヤスシ		医科学研究所・感染・免疫部門・教授	ウイルス学・博士(獣医学)	教育タスクの分担、教育リソース委員会
三宅 健介	ミヤケ ケンスケ		医科学研究所・感染免疫部門・教授	免疫学・博士(医学)	教育タスクの分担、連携網構築委員会
門脇 孝	カドワキ タカシ		大学院医学系研究科・内科学専攻・教授	糖尿病・肥満・博士(医学)	教育タスクの分担、学生支援委員会
黒川 峰夫	クロカワ ミネオ		大学院医学系研究科・内科学専攻・教授	血液・腫瘍内科学・博士(医学)	教育タスクの分担、学生支援委員会委員長、臨床医学系幹事
齊藤 延人	サイトウ ノブヒト		大学院医学系研究科・脳神経医学専攻・教授	脳神経外科学・博士(医学)	教育タスクの分担、カリキュラム委員会
高戸 毅	タカト ツヨシ		大学院医学系研究科・外科学専攻・教授	口腔外科・再生医療・博士(医学)	教育タスクの分担、連絡網構築委員会
山岨 達也	ヤマソバ タツヤ		大学院医学系研究科・外科学専攻・教授	耳鼻咽喉科学・博士(医学)	教育タスクの分担、カリキュラム委員会
浦野 泰照	ウラノ ヤステル		大学院薬学系研究科・薬学専攻・教授(H25.4.1所属部局変更)	生体物理医学博士(薬学)	教育タスクの分担、連携網構築委員会
岡部 繁男	オカベ シゲオ		大学院医学系研究科・分子細胞生物学専攻・教授	神経細胞生物学・博士(医学)	教育タスクの分担、教育リソース委員会委員長、基礎医学系幹事
狩野 方伸	カノウ マサノブ		大学院医学系研究科・機能細胞生物学専攻・教授	神経生理学・博士(医学)	教育タスクの分担、教育リソース委員会
杉田 直彦「H26.4.1追加」	スギタ ナオヒコ		大学院工学系研究科・機械工学専攻・教授	生産工学・加工学・博士(工学)	教育タスクの分担、学生支援委員会
ポーモント クリス「H29.4.19追加」	ポーモント クリス		トランスレーショナル・リサーチ・イニシアティブ・特任教授	数理統計学・修士(理学)	教育タスクの分担、カリキュラム委員会

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成29年度における役割)
江幡 正悟「H29. 4. 19追加」	エハタ ショウゴ		大学院医学系研究科・病因・病理学専攻・特任准教授	分子病理学・博士(医学)	教育タスクの分担、教育リソース委員会
橋本 唯史「H29. 4. 19追加」	ハシモト タダフミ		大学院医学系研究科・神経病理学専攻・特任准教授	生産工学・加工学・博士(工学)	教育タスクの分担、教育リソース委員会
長田 健介「H29. 4. 19追加」	オサダ ケンスケ		大学院工学系研究科・バイオエンジニアリング専攻・特任准教授	バイオマテリアル・博士(工学)	教育タスクの分担、連携網構築委員会
金野 智浩「H29. 4. 19追加」	コンノ トモヒロ		大学院工学系研究科・バイオエンジニアリング専攻・特任准教授	バイオマテリアル・博士(工学)	教育タスクの分担、学生支援委員会
加藤 大「H29. 4. 19追加」	カトウ マサル		大学院薬学系研究科・薬学専攻・特任准教授	分析化学・博士(薬学)	教育タスクの分担、連携網構築委員会
三好 美咲「H29. 4. 19追加」	ミヨシ ミサキ		大学院理学系研究科・生物科学専攻・特任助教	分子細胞生理学・博士(理学)	教育タスクの分担、カリキュラム委員会

## 16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数

本プログラムの過去のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成29年度は提出日現在))

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度 *(今後の募集予定: 有・無)
プログラム募集定員数 (実数)	-	96	48	48	48	40	40
① 応募学生数	-	155	85	96	76	89	81
うち留学生数	-	3	6	9	12	6	5
うち自大学出身者数	-	75 (1)	45 (0)	52 (0)	31 (1)	52 (5)	55 (1)
うち他大学出身者数	-	80 (2)	40 (6)	44 (10)	45 (11)	37 (3)	26 (4)
うち社会人学生数	-	- (0)	- (0)	3 (0)	0 (0)	8 (0)	4 (0)
うち女性数	-	41 (0)	22 (2)	23 (2)	15 (4)	26 (4)	20 (3)
② 合格者数		89	48	48	49	41	41
うち留学生数	-	2	4	4	6		1
うち自大学出身者数	-	51 (0)	31 (0)	37 (0)	23 (0)	27 (1)	30 (0)
うち他大学出身者数	-	38 (2)	17 (4)	11 (4)	26 (6)	14 (0)	11 (1)
うち社会人学生数	-	6 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	4 (0)
うち女性数	-	24 (0)	10 (1)	10 (1)	12 (3)	11 (1)	12 (1)
③ ②のうち履修生数		88	48	46	44	39	39
うち留学生数	-	1	4	4	5	0	1
うち自大学出身者数	-	51 (0)	31 (0)	36 (0)	19 (0)	25 (0)	28 (0)
うち他大学出身者数	-	37 (1)	17 (4)	11 (4)	25 (5)	14 (0)	11 (1)
うち社会人学生数	-	6 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)
うち女性数	-	24 (0)	10 (1)	10 (1)	13 (3)	11 (0)	11 (1)
プログラム合格倍率 (応募学生数/合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	0.00倍	1.74倍	1.77倍	2.00倍	1.55倍	2.17倍	1.98倍
充足率 (合格者数/募集定員)	0%	93%	100%	100%	102%	103%	103%

※留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の( )に内数を記入してください。

※平成29年度\*(今後の募集予定:有・無)については、平成29年度内に履修を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。

また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記入してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. プログラムの履修生数・修了(予定)者数

①区分制及び一貫制博士課程

プログラムの履修生数等	平成23年度						平成24年度						平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度						平成29年度																													
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計																								
平成23年度選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0													
うち留学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0													
うち自大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0													
うち他大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0													
うち社会人学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0													
うち女性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0													
平成24年度選抜							0	37	27	0	0	64	0	0	29	27	0	56	0	0	0	28	26	54	0	0	0	0	32	32	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0																	
うち留学生数							0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																
うち自大学出身者数							0	25	16	0	0	41	0	0	23	16	0	39	0	0	0	22	16	38	0	0	0	0	25	25	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0															
うち他大学出身者数							0	12	11	0	0	23	0	0	6	11	0	17	0	0	0	6	10	16	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																
うち社会人学生数							0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0															
うち女性数							0	10	5	0	0	15	0	0	7	5	0	12	0	0	0	7	5	12	0	0	0	0	8	8	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																
平成25年度選抜													0	39	0	0	0	39	0	0	28	0	0	28	0	0	0	28	0	28	0	0	0	0	28	28	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	4	4						
うち留学生数													0	3	0	0	0	3	0	0	2	0	0	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	2
うち自大学出身者数													0	27	0	0	0	27	0	0	23	0	0	23	0	0	0	23	0	23	0	0	0	0	23	23	0	0	0	0	23	23	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	4	4						
うち他大学出身者数													0	12	0	0	0	12	0	0	5	0	0	5	0	0	0	5	0	5	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	2
うち社会人学生数													0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0											
うち女性数													0	7	0	0	0	7	0	0	2	0	0	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	2						
平成26年度選抜													0	37	0	0	0	37	0	0	31	0	0	31	0	0	0	31	0	31	0	0	0	30	0	30	0	0	0	0	30	30	0	0	0	0	30	30	0	0	0	0	30	30												
うち留学生数													0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0												
うち自大学出身者数													0	31	0	0	0	31	0	0	29	0	0	29	0	0	0	29	0	29	0	0	0	29	0	29	0	0	0	0	29	29	0	0	0	0	29	29	0	0	0	0	29	29												
うち他大学出身者数													0	7	0	0	0	7	0	0	7	0	0	7	0	0	2	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1												
うち社会人学生数													0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0												
うち女性数													0	8	0	0	0	8	0	0	7	0	0	7	0	0	0	7	0	7	0	0	0	6	0	6	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	6	6												
平成27年度選抜													0	38	0	0	0	38	0	4	0	0	0	4	0	1	31	0	0	32	0	1	31	0	0	32	0	0	0	31	0	31	0	0	0	31	0	31	0	0	0	31	0	31												
うち留学生数													0	4	0	0	0	4	0	1	2	0	0	3	0	1	2	0	0	3	0	0	0	2	0	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	2	0	2																		
うち自大学出身者数													0	18	0	0	0	18	0	0	18	0	0	18	0	0	18	0	0	18	0	0	18	0	0	18	0	0	0	18	0	18	0	0	0	18	0	18																		
うち他大学出身者数													0	20	0	0	0	20	0	0	1	13	0	14	0	1	13	0	0	14	0	0	0	13	0	13	0	0	0	13	0	13																								
うち社会人学生数													0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																								
うち女性数													0	10	0	0	0	10	0	0	7	0	0	7	0	0	7	0	0	7	0	0	7	0	0	7	0	0	7	0	0	7																								
平成28年度選抜																																																																		
うち留学生数																																																																		
うち自大学出身者数																																																																		
うち他大学出身者数																																																																		
うち社会人学生数																																																																		
うち女性数																																																																		
平成29年度選抜																																																																		
うち留学生数																																																																		
うち自大学出身者数																																																																		
うち他大学出身者数			</																																																															

17. プログラムの履修生数・修了(予定)者数

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

プログラムの履修生数等	平成23年度					平成24年度					平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度					平成29年度								
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計				
平成23年度					0					0					0					0					0					0					0				
うち留学生数					0					0					0					0					0					0					0				
うち自大学出身者数					0					0					0					0					0					0					0				
うち他大学出身者数					0					0					0					0					0					0					0				
うち社会人学生数					0					0					0					0					0					0					0				
うち女性数					0					0					0					0					0					0					0				
平成24年度					16	8				24	8	15	7		30		10	13	7	30			9	13	22			11	11			1	1						
うち留学生数					0	0				0	0	0	0		0		0	0	0	0			0	0	0			0	0			0	0						
うち自大学出身者数					7	3				10	2	7	2		11		3	6	2	11			3	6	9			4	4			0	0						
うち他大学出身者数					9	5				14	6	8	5		19		7	7	5	19			6	7	13			7	7			1	1						
うち社会人学生数					2	4				6	0	2	4		6		1	1	4	6			1	1	2			1	1			0	0						
うち女性数					7	2				9	3	6	2		11		4	5	2	11			3	5	8			3	3			0	0						
平成25年度										9					9	10	9			19			9	8		17			8	8	16			8	8				
うち留学生数										1					1	1	1			2			1	1		2			1	1	2			1	1				
うち自大学出身者数										4					4	3	4			7			3	4		7			3	4			3	3					
うち他大学出身者数										5					5	7	5			12			6	4		10			5	4			5	5					
うち社会人学生数										0					0	0	0			0			0	0		0			0	0			0	0					
うち女性数										3					3	5	3			8			5	2		7			5	2			5	5					
平成26年度															9					9	4	9		13			4	9	13			4	8	12					
うち留学生数										1					1	1	1			2			1	1		2			1	1			1	1					
うち自大学出身者数										4					4	3	4			7			3	4		7			3	4			3	3					
うち他大学出身者数										5					5	7	5			12			6	4		10			5	4			5	5					
うち社会人学生数										0					0	0	0			0			0	0		0			0	0			0	0					
うち女性数										3					3	5	3			8			5	2		7			5	2			5	5					
平成27年度															9					9	4	9		13			4	9	13			4	8	12					
うち留学生数										1					1	1	1			2			1	1		2			1	1			1	1					
うち自大学出身者数										4					4	2	4			6			2	4		6			2	4			2	4					
うち他大学出身者数										5					5	7	5			12			6	4		10			5	4			5	5					
うち社会人学生数										0					0	0	0			0			0	0		0			0	0			0	0					
うち女性数										3					3	5	3			8			5	2		7			5	2			5	5					
平成28年度																																							
うち留学生数																																							
うち自大学出身者数																																							
うち他大学出身者数																																							
うち社会人学生数																																							
うち女性数																																							
平成29年度																																							
うち留学生数																																							
うち自大学出身者数																																							
うち他大学出身者数																																							
うち社会人学生数																																							
うち女性数																																							
計					0	0	0	0	0	16	8	0	0	24	17	15	7	0	39	19	19	13	7	58	10	18	17	13	58	10	10	17	19	56	9	10	10	17	46
うち留学生数																																							
うち自大学出身者数																																							
うち他大学出身者数																																							
うち社会人学生数																																							
うち女性数																																							
修了者数					0					0					0					7						11					17					16			
就職者数					0					0					0					7						10					17								
プログラム履修生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数					0					0					—					—						—					—					—			

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数」と整合性を取ってください。  
 ※「修了者数」の平成29年度については、修了予定者数を記入してください。満期退学者は修了者には含まないでください。  
 ※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。  
 ※辞退者(Q.Eによるものも含む)や満期退学者がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

## リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

**【概要】**内容：少子高齢化が進行する中で、生命科学とその多様な周辺領域の上に立つ予防・診断・治療などの先端医療開発システムの構築はライフイノベーションの究極のゴールの一つであり重要な成長分野である。先端医療開発システムは複雑系であり、リーダーには多分野の知識と人をまとめ上げるための複合的能力「リーダー力」(自らの専門の確固たる軸足、俯瞰的視野、コミュニケーション能力、見識)が要求される。本プログラムでは、グローバルな先端医療開発システムの構築に向けて医工薬理学系が協働して、部局横断型の学位プログラムを立ち上げ、上記の要求特性を満たす国際的リーダー候補人材を育成する。

教育体制：プログラム担当者は以下の教育タスクを、特任教員の補佐のもと全員で分担して行う。生体の計測・予測・制御をキーワードとして、医工薬理の既存ディシプリンを整理して先端医療開発システムのための融合学理体系を構築し分野俯瞰講義を行う。これまでのグローバル COE 講義・演習の実績と経験を踏まえ、リーダーに必要な能力と見識を整理して実践的な講義と演習を行う。異分野の学生が各領域最先端の論文を発表し英語討論する輪講形式の演習を分担して指導。学内異分野研究室における学内インターンシップ(病院実習を含む)と共通実験室での実験実習にテーマを提供し、学生を受け入れる。国外・国内の有力教育研究拠点や関連拠点(審査・規制当局を含む)とのネットワークの整備とインターンシップの構築。共通実験設備を利用した産学連携の推進。

博士論文イメージと期待する人材像：自らの専門に確固たる軸足を置いた内容でありながら、異分野を巻き込んで先端医療開発システムへの展開を試みた論文。現在の研究の本質と医療開発の問題点を的確に見抜き、産官学の必要な関連分野の人材や技術を動員・育成しながら、ライフイノベーションを先導・牽引できる人材。

**【特色】**養成体制：学部で専門分野基礎をしっかりと固めた優秀な学生を書面・筆記・面接審査により選抜。独自に編成したコースワーク(分野俯瞰講義、リーダー論)、最先端学術論文の英語での輪講形式発表・討論による演習、学内異分野研究室での学内インターンシップ、共通実験室での実験実習、企業・官公庁からの外部講師による実践的講義により俯瞰力・コミュニケーション能力・リーダーとしての見識を育成。並行して専門分野講義と基礎研究指導により専門性を深化させる。2年次の終りに書面と面接で候補者資格審査を行う。この際、審査員の少なくとも一名は、異なるディシプリンのプログラム担当者から選ぶ。3年次の半ばに研究計画書の審査を行い(審査員の構成は不変)、研究指導は最先端の研究を推進しているプログラム担当者が密接に行うとともに、特任教員や異分野のプログラム担当者がメンターとして教育指導にあたる。共通実験室を共同研究・産学連携の場に提供して実践力育成に活用するとともに、国内外の有力連携拠点でのインターンシップを行うことで、リーダー力を実践的に磨く。学位審査に関しては、研究計画書と同じ審査員が行い、専門分野における知識獲得と研究の達成度を含むリーダーとしての能力と見識を備えているかをチェックする。

切磋琢磨させる環境の取り組み：毎年、学生・プログラム担当者が一堂に会する全体会議とリトリートを開催し、各自が研究発表を行い討論することで理解と交流を深める。優秀な発表には賞を与え、特に優秀な学生には研究補助費を支給する。コースワークと演習では、学生が通年で毎週定期的に通年会して交流・討論する。共通実験室を整備して、高度な研究技術を身につけると同時に、研究を通じて日常的に顔を突き合わせる場を設ける。

修了後の活躍の実現性：インターンシップ・共同研究等を通じてそれぞれの分野でのニーズを十分に理解する人材を養成して、これまでに築いた産官学でのキャリアパスをさらに拡大していく。

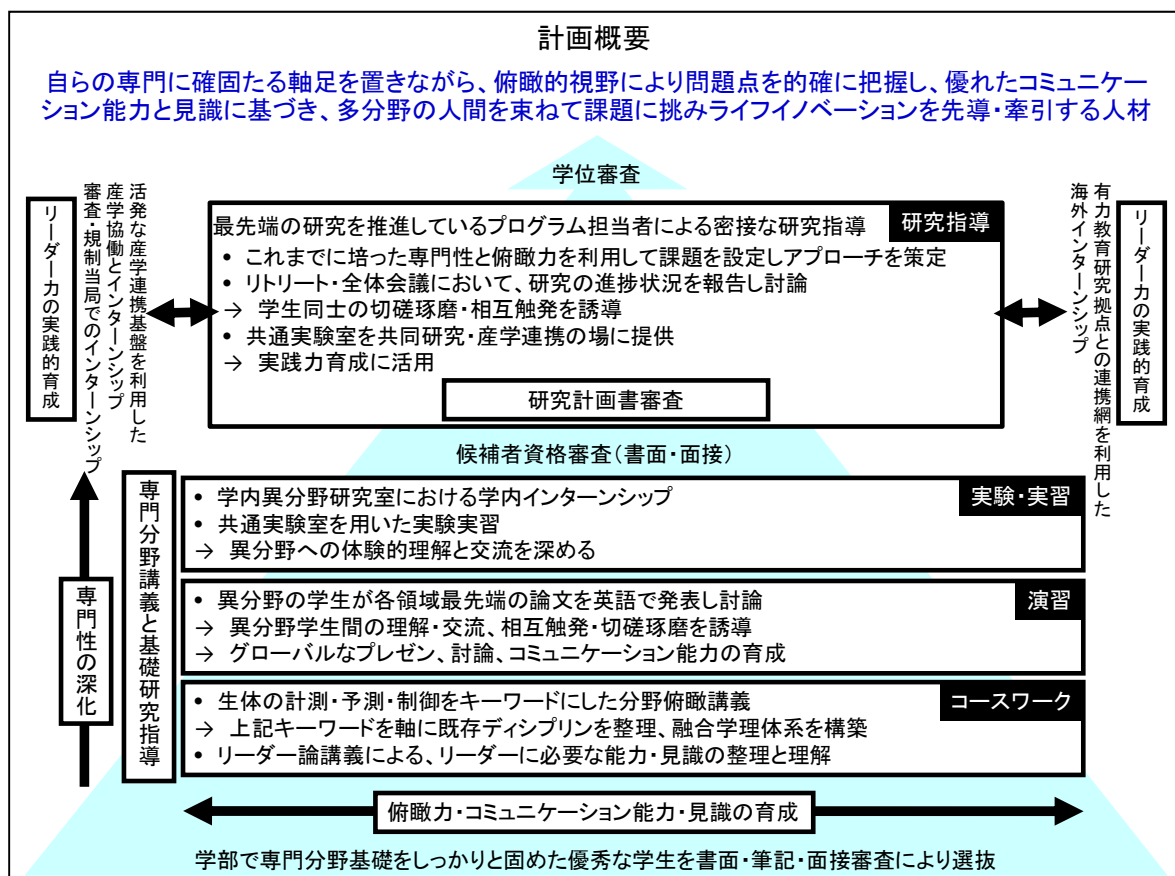
質保証システム：入学時の選抜、2年次の終りの候補者資格審査、3年次の半ばの研究計画書の審査、学位審査と、4段階にわたって、プログラム担当者が学生の質のチェックを行う。

**【優位性】**学内に分散していた、ライフイノベーションに関わる世界的にみても優れた教育研究資源を統合する画期的な試み。基礎から臨床、医薬品から医療機器まで、ライフイノベーションを支える多様かつ複雑な局面に対応できるリーダーの養成。徹底した専門教育とともに、新融合学理に基づく体系的な俯瞰講義と、経験と実績を踏まえた新たなリーダー論、輪講と各種インターンシップによる実践的学習により、リーダーとしての能力・見識を備えた人材を持続的に育成できると期待される。



プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



教育体制

プログラム担当者は教育に関する以下のタスクを、特任教員の補佐のもと全員で分担して行う

- 生体の計測・予測・制御をキーワードとして、これを軸に医・工・薬・理の既存ディシプリンを整理して先端医療開発システム構築のための融合学理体系を構築、ディシプリンや部局の壁を越えた分野俯瞰講義を行う(通年)。  
 具体的には、1・2年次のうちに教えるべき基盤的な内容を整理して教程を作成し、これに沿った授業を構築する。教程の柱としては、
  - 生体の計測：分子・細胞・組織・臓器を計測するための基本原理と技術をカバーする  
 (例)顕微鏡・MRIなどの計測原理、分子細胞計測プローブの開発、MEMS技術、内視鏡・カテーテル技術
  - 生体の予測：分子・細胞・組織・臓器レベルでのモデル化と統合に関してカバーする  
 (例)数理モデル、コンピューターシミュレーション、In vitroモデル、In vivoモデル
  - 生体の制御：分子・細胞・組織・臓器を制御するための基本原理と技術をカバーする  
 (例)物理的・化学的・生物学的な操作の原理と時空間制御技術、応答のモニタリング、システム化
 加えて、リーダーに必要な能力と見識に関して整理・考察したリーダー論を、これまで培った経験と実績を踏まえて構築する。
- 異分野の学生が各領域最先端の論文を発表し英語討論する輪講形式演習を分担して指導(通年)
  - 価値の高い論文の選び方、レジュメの作り方、スライドの作り方、発表と討論の仕方に関して、実際の発表を通して指導。加えて学術論文の書き方の系統的指導も行う。完全英語化。
- 学内異分野研究室における学内インターンシップと、共通実験室での実験実習にテーマを提供し、異分野学生を受け入れる(夏・冬学期に一回)
  - コースワークと連動して、異分野の学生に基本的な原理を実践的に理解させる。病院実習を含む。
- 国外・国内の有力教育研究拠点や関連機関とのネットワークの整備と構築
  - 連携網を構築・維持することで、国内外教育研究機関・企業・厚労省やPMDAなどの審査・規制官庁でのインターンシップに活用する。キャリアパスの構築にも利用。各種インターンシップはリーダー力の実践的育成に最も有効と考えている。
- 共通実験設備を利用した産学連携の推進
  - 産学協働を加速し、そこに学生を体験参加させることで実践的な教育を推進

**多様かつ複雑な局面をもつライフィノベーションを先導・牽引する  
リーダーとなるための能力と見識を育成**

## プログラムの成果

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成するという観点に照らし、学生や修了者の活躍状況を含め、アピールできる成果について記入してください。)

本プログラムの成果として、修了生の進路、受賞、リーダーシップの醸成、若手教員のマネジメントスキルの醸成が挙げられる。

【修了生】産官学の多様な職域で活躍が期待される修了生 104 名を輩出した。内、進学者 1 名と海外で求職中の 1 名を除き、102 名が就職し、内訳は、アカデミア 48 名、企業 44 名、病院 4 名、官 2 名、公的研究機関 2 名、起業 1 名、フリーランス(翻訳者)1 名である。内、海外での就職者は 11 名で、1 名は起業、9 名はポスドク、1 名は翻訳者である。起業した者を含め、ベンチャーから大企業まで多様な事業分野の企業、規制当局や監督官庁、医療現場の医師等として、国内外で、ライフイノベーションの実現に必要な多様なステークホルダーの立場での活躍が期待される。

【受賞等】・国内学会等における受賞：日本生化学会、日本分子生物学会、日本薬学会、日本がん転移学会、日本免疫学会、高分子学会、Anthropological Society of Nippon、HAB 研究機構、Molecular Cell Biology of Macrophage、アクアフォトミクス国際シンポジウム、アジア太平洋国際マイクロスケール分離・分析シンポジウム、大津会議、クロマトグラフィー科学会、高速・分子細胞生物学シンポジウム、国際分離科学シンポジウム、細胞競合コロキウム、シグナルネットワーク研究会、次世代を担う若手ファーマバイオフォーラム、生命科学シンポジウム、天然有機化合物討論会、トランスポーター研究会、内藤コンファレンス、日本 DDS 学会、日本 MRS 学会、日本細菌学会、日本酸化ストレス学会、日本獣医学会、日本人工臓器学会、日本蛋白質科学会、日本蛋白質学会、日本薬物動態学会、分子予防環境医学研究会、有機金属化学討論会、有機合成化学協会、有機合成シンポジウム、国際骨代謝学会、小型魚類学会、情報計算化学生物学会、精密工学会、設計工学会、日本ケミカルバイオロジー学会、日本バイオイメージング学会、日本炎症再生医学会、日本化学工学会、日本海洋学会、日本核酸医薬学会、日本核磁気共鳴学会、日本結晶学会、日本植物脂質、日本生物工学会、日本生物物理学会、日本生薬学会、日本分子イメージング学会、日本薬剤学会、名古屋大学神経回路シンポジウム、遺伝子・デリバリー研究会、日本骨免疫学会

・海外学会等における受賞：Aegean Conferences、American Society of Hematology、CeNeuro、Int'l Chemical Congress of Pacific Basin Societies、Int'l Conference on Osteoimmunology、Int'l Gel Symposium、Int'l Symposium on High Performance Liquid Phase Separation and Related Techniques、Junior Int'l Conference on Cutting-edge Organic Chemistry in Asia、Keystone Symposia、SPSJ Int'l Polymer Conference、Thailand Int'l Conference on Oral Biology、アジア結晶学会、中国免疫学会

・その他業績・アイデアコンペ等：Merck Award for Young Biochemistry Researcher、Nagai Foundation Tokyo Graduate Student Scholarship、Novartis BioCamp Japan 個人優勝、Novartis BioCamp 個人賞、Ono Pharmaceutical travel award、SciFinder Future Leaders、持田記念財団留学補助金、上原記念生命科学財団ポストドクトラルフェローシップ、世界保健機関 (WHO) 公式報告書作成、AppliCare、エッジ・イノベーションチャレンジ、リーディングフォーラム・ネクストビジョナリー

【リーダーシップ】年に 2 回開催する 160 人規模の全体会議とコロキウム(合宿)は、H26 年度より、10 人程度の学生運営委員のチームが主体となって企画・運営し、特に委員長にとって貴重なマネジメント能力研鑽の場となっている。学生間のノウハウ継承により、毎年コンテンツ・運営法ともにレベルアップしており、プログラムオフィサーをはじめ、企業幹部の外部評価委員や国内外から招聘した講師からも非常に高い評価を得ている。

### 【若手教員のマネジメント経験】

本プログラムは医工薬理の 4 研究科にまたがるプログラムであり、それぞれの研究科を代表する若手教員のチームが所属研究科を越えてプログラム全体を俯瞰した運営を行っている。また、若手教員が企画・交渉・運営を行う議論力強化ワークショップ(若手教員の引率により学生のグループが海外の大学・研究機関・企業等を歴訪し、英語による研究発表とディスカッションを行う)は、訪問先機関からも高い評価を受けている。

## プログラムの成果

(大学院教育改革につながる教育研究組織の再編等の学内外への波及効果や課題の発見について記入してください。)

- ・ 大学院教育検討会議を設置し、総長直下の全学的な検討体制において、大学院教育改革、卓越大学院の具体化を検討し、全学の予算委員会を経て学内予算措置を行い、各研究科等の取り組みを促進した。
- ・ リーディングプログラムのもとで設置した学位プログラムの安定的継続について総長が声明を発表した。
- ・ リーディング大学院の理念である「国際性」、「卓越性」、「多様性」は東京大学ビジョン 2020の骨子として取り上げられた。
- ・ 担当理事・副学長、本学 9 拠点のプログラムコーディネーター、プログラム責任者、リサーチ・アドミニストレーター (URA)、事務担当者等からなる「プログラムコーディネーター会議」は、プログラム間の連携、共通課題の解決、学内資源の効率的な活用など、リーディングプログラムで整備した学位プログラム制度を活用した新しい大学院マネジメント体制の中核として機能した。これにより、全学的なプロパティマネジメントを活用した共有スペースの確保、URAの重点配置によるプログラム支援体制の確立、学生への経済的支援に関わる全学規則の制定及び奨励金の支出の円滑化等が図られた。
- ・ 本学 9 拠点の事務担当者や URA 等の支援担当者が構成する「支援担当者会議」にて実務レベルの課題やグッドプラクティスの顕在化、共有化が図られ、連携・協働に向けた意識改革に寄与した。さらに、H27 年度に本学が主催したリーディングフォーラムにおいてリーディングプログラムを統括する本部と 9 拠点の教職員が実行委員を務めたことは、イベントを成功に導くとともに、学内の支援担当者間の連携を促進する機会となった。
- ・ 医工薬理の部局を越えた研究連携の拠点として、連携研究機構が発足した。学内および産学間の共同研究の加速、コアファシリティーの充実を図っている。
- ・ 「知のプロフェッショナル」育成拠点として、学内国際卓越大学院が創設され、GPLLI で培われた医工薬理の部局を超越した体制による、修博一貫の二つの大学院、「ライフサイエンス卓越大学院」、「生体医工学卓越大学院」が H29 年度より創設された。
- ・ 本プログラムのグッドプラクティス及び設備の一部は、上記卓越大学院にて積極的に活用し、さらに発展させる予定である。具体的な例を以下に述べる：
  - ライフイノベーションにおいて重要な全体を見通す俯瞰的視野、多様な価値観を理解し包含する力を身につけるためのカリキュラムとして、グローバル COE 等における医工薬、医薬、医理などの融合分野俯瞰講義の実績と経験を基盤とし、きわめて広範な医・工・薬・理の既存ディシプリンを、生体の計測・予測・制御をキーワードとして整理・体系化した先端医療開発システム構築のための分野俯瞰講義。
  - 異分野・異文化を含む周囲の人間を納得させ共通の目標に向かって組織を動かす実践的な力を身につけることを目的とした、外国人教員の指導の元、学生が自らの専門領域最先端の論文を異分野の学生にとってわかりやすく英語で発表し英語で討論する輪講形式演習。
  - 個々の研究室や単独の研究科では購入や設置が難しい高額先端機器を備えた共通実験室。
  - 前述した共通実験室の先端機器等を活用し、学内の研究科を超えた異分野研究室において最先端の研究指導を受ける学内実習。
  - 学生発意により、プログラム内の異分野研究室と行う共同研究に対する支援。
  - 国内外教育研究機関・国際機関・省庁・企業等におけるインターンシップ。
  - 若手特任教員の企画・引率により、海外の教育研究機関・企業等を歴訪し、異分野・異文化の研究開発関係者に自らの専門分野をわかりやすく紹介し議論を行うことにより、発表力・質問力・議論力を高める議論力強化ワークショップ。
  - 各学生に異分野のプログラム担当教員一名を GPLLI 生学位指導教員(副指導教員)と定めて研究計画書審査を行い、指導教員と連携して最先端医療開発システムへの展開を視野に入れた密接な研究指導を行うメンター制度。
  - 成績に加え、リーダーシップの要件となる項目を分析して独自に設定したシステムを用いた学生選抜、QE、学位審査まで一貫した客観的な評価と、アンケートによる学生自身の主観的評価と自己分析とを組み合わせた評価体系。
- ・ 課題として、プログラム終了後に活動を維持するための教職員の雇用の確保が挙げられ、新たな外部資金の獲得に向けた努力を続けている。